

科目名	基礎看護技術Ⅱ (日常生活の援助技術) Fundamental Nursing skillsⅡ		担当教員 (研究室番号)	川島 珠実 (202) 灘波 浩子 (203) 鈴木 聡美 (306) 菅原 啓太 (204) 多久和有加 (208)	教員への連絡方法 (メールアドレス)							
履修年次	1年次 後期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学		選択区分	必修	単位数 (時間)	2(60)	授業形態	演習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	対象者の生活上のニーズを満たすための看護援助について、科学的根拠に基づき安全・安楽に実施する技術を、主体的な学習により修得する。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の生活を、生理・心理・社会面からアセスメントするための視点を説明できる。 2. 対象者の生活行動を安全・安楽・自立に向けて援助するために必要な知識と技術を習得できる。 3. 科学的根拠に基づいて看護を実践することの必要性を説明できる。 4. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。 											
成績評価方法(基準)	筆記試験(60点)、課題レポート(40点)による総合評価を行う。なお、筆記試験60%以上であり、かつ総合点60点以上の評価であることを単位認定の条件とする。											
再試験の有無と基準等	筆記試験で不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。											
教科書	看護学テキストNICE 基礎看護技術,改訂第3版,南江堂											
参考書等	ゲージョフ・ヘンダーソン著,湯楨ますほか訳:看護の基本となるもの(再新装版),日本看護協会出版会 フロレンス・ナイチンゲール著,小玉香津子・尾田葉子訳:看護覚え書(新装版),日本看護協会出版会,2019. その他、授業の中で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	<p>前期の基礎看護技術Ⅰに引き続き、看護技術の根拠を考えながら、対象者を尊重し、その人に合わせた方法を追求してもらいたいと考えています。そのため、事前学習が必須となり、講義・演習ではグループで基本的な看護技術から応用まで発展的に検討することを重視します。</p> <p>この科目では、全員がある技術の専門家になり、他の学生に教えたり、教えられたりする学習方法を取り入れます。専門家は、技術の流れや留意点、患者への配慮、その根拠等を自分の言葉で説明できるよう自己練習に励んでください。</p> <p>日常生活援助技術は、授業(講義・演習)を受けるだけでは習得することはできません。授業では、「あとは自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己練習のポイントをつかむようにしましょう。また、自分のスケジュールを調整して、予習・復習及び技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度を高めるよう取り組んでください。</p>											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一週間前までに「資料レポート管理システム」に授業概要や事前課題(レポート・映像教材視聴含む)や演習用紙(演習ノート)等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後片付けを課すため、自己の役割を理解して主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで示す)。 											
回	学習項目	学習内容					主担当教員	授業方法				
1回	オリエンテーション	日常生活を整えることの意義について理解する。 ジグソー学習法の進め方について理解する。					川島	講義				
2回	衣生活援助技術①	衣生活の意義および衣服を整える意義と健康に影響を与える要因・アセスメントの視点を学ぶ。					多久和	講義				
3回	衣生活援助技術② (寝衣交換)	臥床状態の対象者の和式寝衣を安全・安楽に交換する技術を学ぶ。					多久和、 他	演習				
4回	清潔援助技術① (清潔のニード)	清潔の意義を理解し、清潔のニードが満たされているかを判断する視点を学ぶ。					川島	講義				
5回	清潔援助技術② (部分浴)	部分浴の種類や方法、その根拠について、学ぶ。					菅原	講義				
6回	清潔援助技術③ (身体)(陰部)	身体及び陰部を清潔にするための方法やその根拠を学ぶ。					川島	講義				
7回	清潔援助技術④ (洗髪)(入浴)	洗髪・入浴の方法や対象者に適した方法を選択する際の視点、その根拠を学ぶ。					鈴木	講義				
8回	清潔援助技術⑤	ジグソー活動の準備を行う。(学習課題の作成:事前学習)					川島、他	演習				
9回	清潔援助技術⑥	専門家チームの活動①:技術習得(教員からの教授)					川島、他	演習				
10回	清潔援助技術⑦	専門家チームの活動②:技術習得及び留意点の確認(専門家グループでの検討)					川島、他	演習				
11回	清潔援助技術⑧	専門家チームの活動③:技術および教授方法の確認					川島、他	演習				
12回	清潔援助技術⑨ 陰部洗浄	ジグソーグループでの実施:専門家からジグソーグループへの教授					多久和、 他	演習				
13回	清潔援助技術⑩ 清拭①	ジグソーグループでの実施:専門家からジグソーグループへの教授					川島、他	演習				
14回	清潔援助技術⑪ 清拭②	ジグソーグループでの実施:専門家からジグソーグループへの教授					川島、他	演習				
15回	呼吸・循環を整える技術 (体温調整)	体温調整機能に異常をきたした対象者に対して、安全・安楽かつ効果的・効率的な電法の援助方法を学ぶ。					灘波	講義				

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
16回	清潔援助技術⑫ 部分浴	ジグソーグループでの実施：専門家からジグソーグループへの教授	菅原、他	演習
17回	清潔援助技術⑬ 洗髪①	ジグソーグループでの実施：専門家からジグソーグループへの教授	鈴木、他	演習
18回	清潔援助技術⑭ 洗髪②	ジグソーグループでの実施：専門家からジグソーグループへの教授	鈴木、他	演習
19回	清潔・衣生活援助技術⑮ (口腔ケア)	口腔内を清潔にする意義、健康や身体への影響、対象者に適した方法を選択する際の視点、技術の根拠を学ぶ。	鈴木	講義
20回	食事援助技術①	食事・栄養のニーズを充足するための基礎的知識とアセスメントの視点を学ぶ。	川島	講義
21回	食事援助技術②	非経口的栄養摂取法の種類と留意点および基本的な援助方法を学ぶ。	川島	講義
22回	排泄援助技術①	排泄の意義、アセスメントの視点を学ぶ。	鈴木	講義
23回	食事援助技術③ (食事介助)	自力で安全に食事摂取ができない対象者に対して、安全・安楽に食事介助を行う技術を学ぶ。	川島、他	演習
24回	清潔・衣生活援助技術⑮ (口腔ケア)	自力で口腔内の清潔が保てない対象者に対して、安全・安楽に口腔ケアを行う技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
25回	排泄援助技術② (排泄障害)	排泄障害のある対象者のアセスメントおよび排泄を整える方法とその根拠を学ぶ。	鈴木	講義
26回	排泄援助技術③ (床上排泄・オムツ交換)	臥床している対象者に対して、安全・安楽に排泄介助を行う技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
27回	排泄援助技術④ (浣腸)	グリセリン浣腸を安全・安楽に実施し、排便を促す技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
28回	清潔援助技術⑯ + 排泄援助技術⑤ (複合技術)	これまでに学習したことを活用しながら、事例対象者に対し安全・安楽を踏まえた援助方法をグループで検討する。	鈴木、他	演習
29回	総合演習①	これまでの学習を活用しながら、事例の対象者に対し安全・安楽をふまえた具体的な援助方法をグループで検討する。	川島、他	演習
30回	総合演習②	総合演習①で検討した援助計画を実践する。	川島、他	演習

学 習 課 題

※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。

1回目課題（事前）：授業ガイダンス資料を事前に読み、学習方法・内容の概要を理解する。

2・3回目課題（事前）：教科書や資料を元に、衣生活の意義や清潔・衣生活を整える方法を整理する。

2・3回目課題（事後）：寝衣交換のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。

4～7回目課題（事前）：教科書や資料を元に、身体の清潔の意義や清潔を整える方法を整理する。

4～7回目課題（事後）：清潔のニーズを把握したり、清潔に保つ方法を選択するための視点を整理する。

8～11回目課題（事前）：教科書や資料を元に、自分が担当する学習課題（援助）の流れや留意点、根拠を整理する。

8～11回目課題（事後）：自分が担当する学習課題（援助）の技術をふり返り、留意点や根拠を自分の言葉で説明できるよう整理する。

12～14・16～19・24回目課題（事前）：清潔を保つ方法の選択や具体的な援助方法を整理する。

12～14・16～19・24回目課題（事後）：身体を清潔に保つ方法や留意点、根拠を整理し、チェックリストを用いて自己の技術を評価する。

15回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、体温調整のメカニズムを復習する。

15回目課題（事後）：覆法の方法および効果について整理する。

20・21・23回目課題（事前）：教科書や資料を元に、栄養状態や水分出納のアセスメントの方法を整理する。

20・21・23回目課題（事後）：自力で安全に食事摂取ができない対象者の食事介助について、レポートにまとめ提出する。

22・25～27回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、排泄のメカニズムを復習する。自己の排泄状況を観察し、記録する。

22・25～27回目課題（事後）：排泄のニーズを把握する視点や、排泄を整えるため援助方法を整理する。

28～30回目課題（事前）：教科書や資料を元に、これまで学習した知識・技術を復習する。

28～30回目課題（事後）：授業で用いた技術について、その援助方法とその根拠について復習する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。